

【沖縄県教育庁文化財課史料編集班】

【Historiographical Institute, Okinawa Prefectural board of Education】

Title	R . C . アンドリュースが1910年に撮影した那覇の写真
Author(s)	宇仁, 義和; 当山, 昌直; 岸本, 弘人
Citation	沖縄史料編集紀要 = BULLETIN OF THE HISTORIOGRAPHICAL INSTITUTE(37): 69-84
Issue Date	2014-03-20
URL	http://okinawa-repo.lib.u-ryukyu.ac.jp/handle/okinawa/17445
Rights	沖縄県教育委員会

沖縄地域学リポジトリ

ORION:Okinawa Repository Integrated Open-Access Network



R. C. アンドリュースが 1910 年に撮影した那覇の写真

宇仁 義和・当山 昌直・岸本 弘人

Roy Chapman Andrews was a famous explorer who organized the Central Asiatic Expedition in the 1920 and discovered dinosaur eggs in the Gobi Desert. He started his career as a scientist in the study of whales and published his first book, *Whale Hunting with Gun and Camera*, in 1916. He came to Japan in 1910 and conducted his research of Sei whales at the whaling bases on Kii-Oshima and in Ayukawa. This article introduces thirty unpublished photographs of Naha by Andrews taken in 1910 which were found in the Special Collections of the Research Library in the American Museum of Natural History. Since there are few photographs of pre-war Okinawa, those high quality photographs which captured people's daily lives and their expressions, and show Shuri Castle among other things are extremely significant.

はじめに

ロイ・チャップマン・アンドリュース Roy Chapman Andrews (1884–1960) は、ニューヨークのアメリカ自然史博物館 American Museum of Natural History (AMNH) の学芸員で、1920年代にモンゴルを調査し、ゴビ砂漠で恐竜の卵を発見した野外研究者である。博物館では館長に上り詰め、映画の主人公インディ・ジョーンズ Indiana Jones のモデルといわれる。日本ではあまり知られていないが、アメリカでは自国が生んだ 20 世紀の探検家として高く評価されている。

恐竜のイメージが強いアンドリュースだが、研究者としての経歴は鯨類に始まった。日本には 1910 年に滞在し、東洋捕鯨の紀伊大島（和歌山県）と鮎川（宮城県）の事業場で、鯨の生物学的調査を行った。鯨に関する彼の著書は、*Whale Hunting with Gun and Camera* (Andrews, 1916) [銃とカメラで鯨狩り] で、タイトルのとおり数多くの写真が収録されている。同書には沖縄の記述はないが、講演録 *Ends of the Earth* (Andrews, 1929) [地球の果て] に 1 段落 8 行ながら Loo Choo Island (琉球) が登場する。書籍への掲載はないものの、筆者らの調査によって、アメリカ自然史博物館が収蔵するアンドリュースの未発表写真のなかに、少数ではあるが那覇の写真が含まれていることが明らかとなった。

本稿ではアメリカ自然史博物館に所蔵されているアンドリュース撮影写真から、1910年2月に那覇で撮影されたものを取り上げ、内容を説明するとともに、暫定的ではあるが

現在地を比定した。なお、本論は科学研究費補助金「もうひとつの近代鯨類学「第一鯨学」の形成と展開」(基盤研究C 2011-2013, 代表研究者: 宇仁義和)の補助を得て行われた。

1. 材料と方法

アメリカ自然史博物館を訪問し、アンドリュースが撮影した写真の紙焼きプリントの記載事項を調べ、撮影地が "Loo Choo Island" (琉球) と記された作品を複写し、文献や聞き取り、過去や現在の写真を利用して撮影地を特定、解説した。

アンドリュースの写真は、博物館の研究図書館貴重資料室 Special Collections of Research Library に保管されており、ガラス乾板とロールフィルムからなるオリジナルネガ、幻灯会用の着色スライド lantern slides、バーチカルファイル vertical files のキャビネットにある閲覧用プリントからなっている。収集した資料は、閲覧用プリントおよびそれらの撮影データ (メタデータ) で、デジタル一眼レフカメラを用いて複写した。

アメリカ自然史博物館での資料調査は、筆者のひとり宇仁と研究協力者である和歌山県太地町歴史資料室の櫻井敬人学芸員、アメリカ海洋大気局 (NOAA) のロバート・ブラウネル Robert Brownell Jr. 上級研究員 Senior Scientist との3人で2011年10月13-14日と2013年2月7-8日に実施した。

撮影場所を特定する調査は、文献や写真集などの資料を中心に行った。また必要に応じて現地調査を行った。これらの調査を補足するために、聞き取り調査を行なった。調査は、當山喜世子 (大正5年那覇市旭町で生まれ育つ: 共著者当山の母) にパソコンをつないだ液晶プロジェクターから写真を投影し、適宜拡大しながら場所の確認に努めた。聞き取りは当山と岸本が2013年11月3日に3時間 (パソコン使用)、当山が11月10日に1時間 (補足確認の調査で写真掲示のみ)、計4時間の調査を実施した。これらの資料と聞き取り調査との整合性なども考慮して撮影場所の特定に努めた。

なお、近年翻訳が出版された伝記『ドラゴンハンター』(ガレンキャンプ2006)は、原著 (Gallenkamp 2001) に誤りが目立ち、訳書も誤りをそのまま記している。宮城県牡鹿町 (現・石巻市) 鮎川のことを佐渡島の相川、高知県土佐清水のことを静岡県の清水、紀伊大島を伊豆大島 (ガレンキャンプ2006: 58~59頁) といった具合である。誤記はアンドリュース自身の著作にも散見され、彼の日本での足取りについては現在調査中である。

2. 結果

アメリカ自然史博物館が所蔵するアンドリュース撮影写真のうち、琉球 Loo Choo Island と記されたものは、4×5判ネガの紙焼きプリント11点、5×7判ネガの紙焼きプリン

ト19点、計30点が得られた(表1)。表1の「資料番号」および「オリジナル」は、閲覧プリントに記載されたネガ番号 Neg. No. と主題 Subject、「オリジナルの和訳」と「撮影場所の比定」は筆者らによる和訳と撮影場所の特定を試みたものである(空欄は場所不明)。

表1. R. C. アンドリュースが1910年2月に沖縄で撮影した写真の撮影データ

資料番号	オリジナル	オリジナルの和訳	撮影場所の比定
4×5判ネガの紙焼きプリント			
26670	Street scene - China displayed for sale.	街路の景観、販売のため陶器が陳列されている	那覇警察署裏
26671	“ “ [Street scene]	街路の景観	見世前大通り
26672	“ “ [Street scene]	街路の景観	
26673	Girl carrying baby.	赤ん坊を背負った少女	
26674	Man and loaded horse.	男性と荷馬	
26675	House and doorway in wall.	住宅と塀のなかの玄関	
26676	Girls and Captain McCormick.	少女たちとマコーミック船長	
26677	Gateway to Temple of Tablets of the Kings.	王の廟がある寺の玄関	崇元寺石門裏
26678	Market place - women do all the trading.	市場、すべて女性が商っている	カタバルマチ グラー
26679	Sago palm in front of Temple of the Tablets of the Kings.	王の廟がある寺の前にあるサゴヤシ	崇元寺廟
26680	First stairway leading to Shuri Palace. It was here that Commodore Perry signed a treaty with the king of the Loo Choo Is.	首里城に続く最初の階段。ペリー提督が琉球諸島の王との条約にサインした場所である	首里城瑞泉門
5×7判ネガの紙焼きプリント			
14711	One of the walled passages in the Shuri Palace, - girl sitting on steps.	壁に囲まれた首里城の通路のひとつ、階段に少女が座っている	首里城左掖門 と美福門
14712	First covered gateway - lower road leading to Shuri Palace.	第一の門、首里城に続く下の道	首里城守礼門
14713	One of the gates inside the walls of the Shuri Palace.	首里城の壁の中にある門のひとつ	首里城歓会門
14714	Shuri Palace. This building is now used as a school for boys and girls.	首里城。建物は共学の学校として使われている	首里城正殿
14715	no description lines	解説欄がない	那覇警察署前
14716	Women selling red laquer in street; taken from post-office.	街路で赤い漆器を売る女性たち、郵便局から撮影	那覇警察署裏
14717	Horse loaded.	荷馬	
14718	Stone bridge over river.	川に架かる石橋	泉崎橋
14719	Typical street showing walls about houses	住宅の塀がならぶ典型的な街路	
14720	Plaza near water-front.	岸近くの広場	通堂町
14721	Shinto Temple on hill overlooking sea.	向こうに海が見える丘の神社	波之上宮
14722	Girls pounding with log driver. Ropes are fastened near to bottom of log, the girls chant a little song, and all pull together, lifing the log letting in fall suddenly.	丸太の駆動具を打つ少女たち。ロープが丸太の底部に結ばれ、歌いながらみんな一緒に引っ張る、引き上げられた丸太は瞬時に落下する	
14723	Street showing banyan tree.	ガジュマル?の木がならぶ街路	
14724	Section of village showing tiled roofs of houses. Taken from hill on outskirts.	瓦屋根の住宅がならぶ村の地域。町外れの丘の上から撮影	
14725	Same as no. 14718	14718におなじ	泉崎橋
14726	Typical houses. Taken from hill.	典型的な住宅。丘から撮影	
14727	Tomb near Naha. The tombs of the common people have slant roofs. Those of the gentry are in shape of the Greek letter Omega.	那覇近郊の墓。一般人の墓は傾斜した屋根を持つ。貴族のはギリシア文字のオメガΩの形をしている。	
14728	Tombs of commoners and gentry on hills.	丘にある一般人と貴族の墓	
14729	Crushing suger. The sugar cane is crushed, the juice runs out into a trough and is then dipped out and boiled down in the hut.	砂糖を搾る。サトウキビを搾り、流れ出た汁が桶に入り、その後くみ出され小屋のなかで煮詰められる	



Image 26670. 街路の景観、販売のため陶器が陳列されている（那覇警察署裏）
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 26671. 街路の景観（見世前大通り）
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 26672. 街路の景観（場所不明）
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 26673. 赤ん坊を背負った少女（場所不明）
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 26674. 男性と荷馬（場所不明）
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 26675. 住宅と塀の中の玄関（場所不明）
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 26676. 少女たちとマコーミック船長(場所不明)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 26677. 王の廟がある寺の玄関 (崇元寺石門裏)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 26678. 市場、すべて女性が商っている
(カタバルマチグラー)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 26679. 王の廟がある寺の前にあるサゴヤシ
(崇元寺廟)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 26680. 首里城に続く最初の階段。ペリー提督
が琉球諸島の王との条約にサインした場所である
(首里城瑞泉門)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14711. 壁に囲まれた首里城の通路のひとつ、
階段に少女が座っている (首里城左掖門と美福門)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14712. 第一の門、首里城に続く下の道
(首里城守礼門)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14713. 首里城の壁の中にある門のひとつ
(首里城歓会門)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14714. 首里城。建物は共学の学校として使われている
(首里城正殿)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14715. 説明欄がない
(那覇警察署前)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14716. 街路で赤い漆器を売る女性たち、郵便局から撮影 (那覇警察署裏)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14717. 荷馬 (場所不明)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14718. 川に架かる石橋 (泉崎橋)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14719. 住宅の塀がならぶ典型的な街路
(場所不明)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14720. 岸近くの広場 (通堂町)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14721. 向こうに海が見える丘の神社 (波之上宮)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14722. 丸太の駆動具を打つ少女たち。ロープが丸太の底部に結ばれ、少女たちは短い歌を歌いながらみんな一緒に引っ張る、引き上げられた丸太は瞬時に落下する (場所不明)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14723. ガジュマル?の木がならぶ街路
(場所不明)
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14724. 瓦屋根の住宅がならぶ村の地域。町外れの丘の上から撮影（美栄橋付近）
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14725. 14718 におなじ（泉崎橋）
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14726. 典型的な住宅。丘から撮影（場所不明）
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14727. 那覇近郊の墓。一般人の墓は傾斜した屋根を持つ。貴族のはギリシア文字のオメガΩの形をしている（場所不明）
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14728. 丘にある一般人と貴族の墓（場所不明）
American Museum of Natural History Library 蔵



Image 14729. 砂糖を搾る。サトウキビを搾り、流れ出た汁が桶に入り、その後くみ出され小屋のなかで煮詰められる（場所不明）
American Museum of Natural History Library 蔵

写真と説明

撮影時期は、すべて1910年2月と記されていた。被写体からこれらはすべて沖縄での撮影と判断した。このうち撮影地または被写体の比定ができたものは推定も含めて16枚であった。比定調査についてはまだ中途ではあるが、今回の調査の中からいくつかの写真について説明を加えてみたい。説明は、表1の資料番号を用いて文献や聞き取り調査などを参考にして行なった。説明中では當山喜世子を當山と略した。

Image 26670：那覇警察署裏通り焼物市付近 写真中央に見える電柱の背後にある瓦屋根と写真 Image 14716の背後の電柱の後ろに見える瓦屋根とが一致する（図1参照）。Image 14716の右側にある電柱は3本あるのに対して26670の写真は2本になっている。したがって、Image 14716の撮影地点から数十m先に進んだ位置と推定される。仲宗根（1976）の地図から道路左側の建物は青山書店に隣接する塗物市、那覇署裏門の出入り口を挟んで次に焼物市と推定される。撮影日を1910年2月1日として、写真の影の長さ⁽¹⁾と方向から時間を算出してみた。その結果、太陽高度約20度、太陽方位約122度、時刻午前9時となった。この写真は、午前9時ごろ青山書店方面から西ないし西北西方向を撮影したものと考えられる。

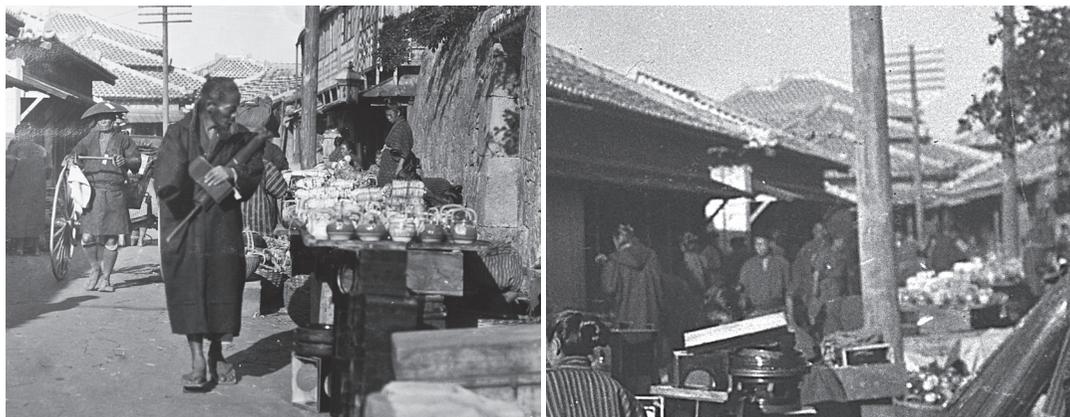


図1. Image 26670 (左) と Image 14716 (右) の部分拡大。背後の瓦屋根の形が一致する。

Image 26671：見世前大通り 時計が10時7分を指しており、影が右側に伸びていることから南ないし南南西方向へ向けて撮影されたものである。時計後方の大きな建物は、親泊編（1917：51頁）にみられる第四百七銀行沖縄支店と、屋根の飾りテラスの手すりなどほぼ一致しているので、第四百七銀行沖縄支店と断定される。那覇市企画部市史編集室編（1980：58頁）に見世前通りとその銀行が写っていることから、

(1) 生活や実務に役立つ計算サイト (<http://keisan.casio.jp/exec/system/1185781259>) を参照した。

今回の写真は見世前通りとした。なお、この時期は通堂―首里間の電車はまだ開業していない。

Image 26672：場所不明〈那覇港に近い場所か〉 土地が平坦であり港に近い場所と思われる。Image 14720に近い場所と考えられる。もし資料番号が撮影地域によって塊状にあるとしたら Image 14721が波之上宮なので港の近くであることを示唆するものと思われる。今後の調査検討を要する。

Image 26674：場所不明 オリジナルの説明は「男性と荷馬車」とある。當山によると「サーター樽のようだ、（水が入っているのかの質問に対して）水を運んでいるのではない、中身についてはわからない」と話していた。樽は縄で嚴重に縛られており、比較的軽く高価なものだったかもしれない。写真の樽部分を拡大したものを図2に示す。図2をみると、樽の中身と思われる物が見え、黒糖のような形をしているが断定はできない。いずれにせよ、写真は砂糖を運ぶ運搬業の男性と馬を撮影



図2. Image 26674の樽部分の拡大

したものと同定される。Image 14717も同じであると思われる、滞在中に少なくとも複数の同業者に遭遇したことを示しているといえよう。

Image 26676：場所不明〈孔子廟付近か〉 草履や下駄を履いている子どもが多く、衣服を見ても割と裕福な家庭の子どもたちのように見受けられる。2人は遊び道具らしきボールを、1人は書籍らしき物を持っている。後方の碑は国建地域計画部編（2004：160頁）にみられる「琉球新建儒学碑記」の拓本と形態的に類似していることから、孔子廟東側に隣接していた明倫堂前の可能性も考えたが、位置関係などが確認できないので、今後の検討が必要である。

Image 26677：崇元寺石門裏 背後に小高い丘がみえる。那覇市企画部市史編集室編（1979）の民俗地図によると、この位置に「ウムイヌ毛」と呼ばれる丘があるので、石門の背後に見える丘は「ウムイヌ毛」と思われる。石門の内部には26679と同じ形態を呈する石畳が認められる。

Image 26678：カタバルマチグワー 那覇市企画部市史編集室編（1979）の民俗地図を参考に、遠くにみえる丘陵地および市場との間の平地などから、泊にあったカタバルマチグワー（潟原市場）と推定した。市場の後方にみえる平地は塩田と思われる。塩田の背後に見えるのは民俗地図で示されている「ミーミチ」と思われる。當山も泊に

市場があったことを話しているが、今回の写真はより古い写真なのではっきりとした返事ではなかった。

Image 26679：崇元寺廟 親泊編（1917：19頁）に掲載されている崇元寺廟の写真と左側のソテツと右側のクロツグと思われる植物の配置がよく似ている。また建物も全体的に似ているので崇元寺廟とした。

Image 14711：首里城左掖門と美福門 写真の特徴は右横に斜め方向にあがる階段が認められることである。オリジナルでは首里城内とあるので、首里城内の場所について検討してみた。その結果、舊首里城（沖縄県立図書館蔵）の図面中の美福門付近に斜め方向の階段が認められた。さらに首里城復元期成会・那覇出版社編集部編（1992：115頁）にはほぼ同じ角度から撮影したと思われる写真が認められた。したがって、この写真は、左掖門方向から美福門を撮影した写真と断定される。写真は二階殿とその門の屋根の一部が見える。また、美福門上には木造の構造物が残っており、貴重な資料になることが考えられる。

Image 14712：首里城守礼門 Image 14713は首里城歓会門、Image 14714は首里城正殿と続く。いずれもよく知られた首里城関連の建造物ではあるが、明治後期に撮影された写真として、その周辺の環境もふくめて変遷を調べる上で貴重な資料となろう。

Image 14715：那覇警察署前 右奥に特徴のある門が見える（図3参照）。琉球新報社編（1978）に掲載されている「那覇警察署」の門と酷似している。仲宗根（1976）の「山形屋創立前の那覇警察署」の配置図と比較すると、ガジュマルの大木と広いスペース、正面石垣前的人力車駐車が一致している。したがって、「那覇警察署前」という結論に至った。手前の大きな影は、二階建ての並川金物店のものと思われる。



図3. Image 14715の門付近の拡大

Image 14716：那覇警察署裏通り青山書店付近 中央に見える3枚の看板に左から「書籍・・・」、「青山・・・」、「書籍・・・」の文字が見えるので「青山書店」であろう。山形屋創立以前は同書店の隣地に那覇警察署があったことが仲宗根（1976）の地図で確認でき、後方にみえるやぐらの鐘も同地図から那覇警察署の鐘⁽²⁾と考えられる。したがって、写真は那覇警察署裏通り青山書店付近とした。

(2) 1977年（昭和52）8月20日の琉球新報に「構内の北東方に鐘楼があり、平素は時を報じ、火事には半鐘を叩いていた」とある。現在この鐘は那覇市与儀の那覇警察署正面玄関前に安置されている。

Image 14718：泉崎橋 那覇市企画部市史編集室編（1980）に同様な写真が掲載されており、當山も「泉崎橋」と即答していたので泉崎橋と断定される。

Image 14720：通堂町 写真左の石が積まれているところの上に、円板状の看板が網にかけられており、右端の文字より「徳」「田」「商」「店」と読める。他には「營」「業」「所」「金」「具」「船」「具」「総」「糸」「商」の文字が認められる。明治41年11月12日の琉球新報には以下の広告が見られる。「徳田商店の開店披露 区内字東県庁門前の徳田商店は従来烟草販売を営みつつありしが先日元売捌人減少の関係よりして同業を廃止し本日より愈々金物商を開始する由因に記す総糸類販売は従前の通り営業を継続すとの事なり⁽³⁾」。看板にみられる「徳田商店」は新聞にみられる商店名と一致していると考えられる。次に、写真の道向こうの奥に3本やぐらが確認される。同様なやぐらは那覇市歴史博物館の古写真（①資料コード：02003723、資料名：那覇港と②資料コード：02005751、資料名：那覇（港）／那覇港浚渫作業風景／大正初期）でも確認ができ、那覇港に停泊する砕岩機を搭載した船（http://naha.machitane.net/old_photo.php?id=1360）と考えられる。また、砕岩機を搭載した船は渡地よりは海側の大型船が停泊する場所に接岸していたことが考えられる。また、人物の影から写真左側が南方向であることが理解される。これらの資料をもとに、那覇市企画部市史編集室編（1979）の民俗地図および山崎・佐藤（1915）の第四版図から検討した結果、県庁南の交差点付近から西側の通堂橋の方向に向けて撮影した写真と推定した。

Image 14721：波之上宮 地形、鳥居や建物の位置および背景から判断して波之上宮とした。當山に見せたところ「波之上か、ずいぶんちがう。右側のは護国寺か」と話した。すぐに気がつかなかったのは明治から昭和初期にかけて本地域が大きく変遷したことによるものと想像される。

Image 14722：場所不明 那覇市企画部市史編集室編（1980：67頁）には同類の写真が掲載されており、ヂーブクニーヤー（よいとまけ）と説明されている。この写真もヂーブクニーヤーの場面と思われる。写真をみた當山は次のように話していた。「昔は、このように工事をしていた。オーバーたちが謡（琉球音楽）を歌いながら工事していた。男たちは、あの丸太の下に石を入れて土台を固めた。オーバーが歌い、男が紐を引いた。この写真の場所はわからない。いつごろまでやっていたかまではわからない」。當山は、女性が歌い、男が紐を引いたと話しているが少しあいまいな答え方

(3) 本文は沖縄県文化振興会史料編集室編（1997）『沖縄県史資料編5 染織関係近代新聞資料』338頁より引用

(4) 山崎・佐藤（1915）の図では、県庁の位置が明示されている。

だった。写真を詳しくみると女性も引いているように見え、年齢も若い女性（少女か）であることがわかる（図4参照）。英文説明では少女たち（girls）が紐を引いたとしているので、女性も紐を引いたのは確実であろう。ただし、當山は大正から昭和初期の記憶であり、時代の流れの中で男女の役割や年齢が変化した可能性もあるかもしれない。謡は琉球の音楽であったとのことであるが、謡の種類は特定できなかった。



図4. Image 14722 の部分拡大

Image 14723：場所不明 當山は「場所はわからない。むかしはこのような風景はどこにでもあった。サトウキビは、葉ではなくて絞るかすだろう。これを燃料にした。売っているのは豆腐だろう」と話している。背負っている植物部分を拡大してみるとスキのようにもみえる。撮影が製糖期にあたる2月なので、サトウキビの絞るかすの可能性が高い。

Image 14724：場所不明〈美栄橋付近から撮影か〉 写真は、干潮で潮が引いた跡のような様相をしており、海岸もしくは海岸に近い感潮域の河川であろう。曇天で影がはっきりしないが、人物の影から南方向を撮影していると思われ、写真自体が逆光下で撮影されたような形跡がある。背後の丘の上にあるリュウキュウマツと思われる景観が特徴的である。このような光景は1797年に描かれたウィリアム・プロトン（オーシュリ・上原，1987：16～17頁）のスケッチにもみられるが、今回の写真と一致する場所はなかった。写真背後の丘は、特徴的な二峰となっており、同じ形態の丘がImage 14727の写真にも認められる。恐らく両者とも近い位置にあることが想像される。當山は「久茂地小学校の近くだろう。近くは畑が多かった」と話した。本人は旧制だった頃の久茂地小学校に通っているの、久茂地小学校付近の可能性は高い。久茂地付近という前提で検討すると背後の山は那覇高校付近および楚辺の丘陵の可能性が高い。写真は河川上の高い位置から撮影されている。これらの情報を基に那覇市企画部市史編集室編（1979）の民俗地図を検討した結果、美栄橋付近から楚辺方面を撮影したという可能性を考えた。しかし、原資料には町外れの丘の上から撮影とあるが、美栄橋近くの北側にはそれに該当する丘を確認することができなかった。また、山崎・佐藤（1915）の第四版図には、美栄橋付近の東側に人家はほとんどみられない。今後の検討が必要である。

Image 14725：泉崎橋 Image 14718の写真にみられる橋の石積の形、石積の間にみられ

る植物と思われる黒色部分、これらがほぼ一致しており、Image 14718の対岸から撮影したと思われる。

Image 14726：場所不明〈久茂地町二丁目付近か〉 前景の大きな建物が特徴的である。煙突が無いので泡盛工場などではないだろう。その背面には河川が確認される。直線的でゆるやかな流れである。さらにその背後はゆるやかな傾斜の丘になっている。那覇所在の河川として久茂地川が考えられる。背後の丘を考慮して久茂地川河川沿いを検討すると現在の県庁から那覇高校付近の丘陵の可能性はある。写真は曇天で右側に太陽が位置しているように見える。これらを勘案して検討してみると、久茂地町二丁目の西よりの位置から那覇高校方面に向けて撮影したのではないかという考えに行き着いた。しかし、これは現段階における推測であり、今後さらに詳しい調査が必要である。

Image 14727：場所不明〈牧志町一丁目付近か〉 写真背後の丘は、Image 14724と一致していると考えられる。したがって、美栄橋に近く、撮影方向からみて西よりの場所と思われる。當山は「辻町の墓」と答えていたが、写真で見るとような丘は辻町の近くには無いようである。次に、墓地に注目して沖縄県文化振興会公文書管理部史料編集室編（2002：6頁）にみられる1945年1月3日米軍撮影の空中写真（3PR5M3-19）⁽⁵⁾を調べた。墓地および墓は、明治後期と昭和初期とではだいぶ時間差があるとはいえ、大きな変化がないと考えられるからである。また沖縄県文化振興会公文書管理部史料編集室編（2006）に付録としてついているDVDのokin1945.kmzファイルを用いて、Google earthによる1945年と現代の空中写真を比較しながら、今回の写真の撮影場所を特定する試みを行った。その結果、戦前の墓地や墓は現在でも緑地帯等で墓と一緒に残っている所が多いことが確認された。背後の丘が楚辺付近で、撮影位置が美栄橋近くだとすると、写真の撮影場所は久茂地小学校に近い牧志町一丁目付近ではないかと考えられた。

Image 14728：場所不明 ゆるやかな傾斜地に民家と墓が混在している。當山は「天久の墓。天久の墓はよく行くところ、あの風景はよく知られていた」と話していた。しかし、まだ裏付けとなる根拠に乏しいので今回は場所不明としておいた。

Image 14729：場所不明 背後に大きな建物施設がみえる。おそらく県の施設かもしれない。明治43年4月19日琉球新報には安里農事試験場にマンガースを配置する旨の記事があるので、施設が上記の試験場であれば、安里付近を撮影した可能性もあるが今後の検討が必要である。

(5) 空中写真は沖縄県公文書館で閲覧・複写をすることができる。

3. 考察

現在に残る20世紀初頭(=明治末期)の沖縄の写真は数少ない。なかでも一般のひとびとの生活や暮らしを写したまとまった写真は、ブール師 Earl Rankin Bull (1876-1974) が集めた着色写真と渡瀬庄三郎(1982-1929)関連写真が知られる程度である。ブール師の写真は、彼が沖縄に滞在した1911-1926年の間に収集されたガラススライド80点で、婚礼や葬祭、祭りなど特別な衣装や場面の撮影、あるいはポーズをとった人物の写真が多く見られ、撮影地は八重山に及ぶ。このうち52点にはブール師による英語の解説が付けられている(琉球大学附属図書館, 1996: ガラス版写真目録 <http://manwe.lib.u-ryukyu.ac.jp/library/academic/bull/photo/index.html> ウェブでは重複を除いた63枚を公開)。渡瀬の写真は、東京大学理学部教授であった明治42~43年(1909-1910)に沖縄を訪問し、那覇や宜野湾、糸満、与那原、西原、渡名喜島などの風景や庶民の姿を写した貴重なものである(沖縄県文化振興会公文書管理部編, 2002)。おなじ生物学者のためか、渡瀬とアンドリュースの被写体には共通性があるように思われる。

アンドリュースの沖縄滞在はわずか数日間と思われ、撮影地も那覇と首里に限られる。反面、撮影年月がほぼ特定されること、4×5判や5×7判のサイズを活かした鮮明で詳細なイメージが得られること、他の写真では見られない独自の被写体、たとえば首里城内の美福門と思われる場所や那覇市内の市場の様子などが撮られており、30枚と数少ないながら、沖縄の近代史にとって貴重な資料と評価できよう。また、場所については、短期間の調査で、聞き取りも一例だけの調査の範囲内であるので十分に調べたとはいえない。今後の調査によって場所の特定が進み、さらに資料的価値が高まることを期待したい。

謝辞

本稿を作成するにあたり、次の機関で調査を行なった。アメリカ自然史博物館研究図書館 American Museum of Natural History Research Library、沖縄県公文書館、琉球大学附属図書館。また、次の方々にはたいへんお世話になりました。アメリカ自然史博物館研究図書館のバーバラ・マーサ貴重資料室長 Barbara Mathé, Museum Archivist and Head of Library Special Collections、グレゴリー・ラムル研究司書 Gregory Raml, Special Collections and Research Librarian、同図書館での調査に同行いただいた太地町歴史資料室の櫻井敬人学芸員、アメリカ海洋大気局(NOAA)のロバート・ブラウネル上級研究員 Robert Brownell Jr. Senior Scientist、90年前の記憶の聞き取り調査に協力いただいた、當山喜世子氏。記してお礼申し上げます。

引用文献

- Andrews, R. C. (1916) *Whale Hunting with Gun and Camera*. D. Appleton, New York. 322pp.
- Andrews, R. C. (1929) *Ends of the Earth*. G. P. Putnam's Sons, New York. 355pp.
- Gallenkamp, C. foreword by Novacek, M. J. (2001) *Dragon hunter : Roy Chapman Andrews and the central Asiatic expeditions*. Viking, New York. 344pp.
- ガレンキャンプ, C., ノヴァチェック, M. J. (2006) ドラゴンハンター ～ロイ・チャップマン・アンドリュースの恐竜発掘記～. 技術評論社, 東京. 413pp.
- 国建地域計画部編 (2004) 石碑復元計画調査報告書. 那覇市. 340pp.
- 那覇市企画部市史編集室編 (1979) 那覇市史 資料篇 第2巻中の7 那覇の民俗. 那覇市. 873pp.
- 那覇市企画部市史編集室編 (1980) 那覇百年のあゆみ. 那覇市. 216pp.
- 那覇市歴史博物館 写真資料検索 http://www.rekishi-archive.city.naha.okinawa.jp/photos_search.php
- 仲宗根宗温 (1976) 東町の民俗地図を書き終えて. 那覇の民俗編集ニュース. (8): 5-9.
- 沖縄県文化振興会公文書管理部編 (2002) 東京大学理学部生物学研究科図書室調査. 沖縄県史だより (12): 8.
- 沖縄県文化振興会公文書管理部史料編集室編 (2002) 沖縄県史ビジュアル版 10 空から見た昔の沖縄. 沖縄県教育委員会. 79pp.
- 沖縄県文化振興会公文書管理部史料編集室編 (2006) 沖縄県史図説編 県土のすがた. 沖縄県教育委員会. 282pp.
- オーシュリ, ラブ・上原正稔編著 (1987) 青い目が見た大琉球. ニライ社. 240pp.
- 親泊朝擢編 (1917) 沖縄県写真帖 第一輯. 小澤書店. [写真集 望郷・沖縄 第2巻. 本邦書籍株式会社. 1981年].
- 琉球大学附属図書館 (1996) アール・プール文庫貴重資料展 (ウェブページに再録 The Reverend Earl Rankin Bull <http://manwe.lib.u-ryukyu.ac.jp/library/academic/bull/index.html>)
- 琉球新報社編 (1978) むかし沖縄 写真集. 琉球新報社. 270pp.
- 首里城復元期成会・那覇出版社編集部編 (1992) 写真集 首里城. 那覇出版社. 199pp.
- 山崎直方・佐藤伝蔵 (1915) 大日本地誌第十巻 琉球及台湾. 博文館. 592pp.